

平成30年4月10日

横浜市会議長

松 本 研 様

健康づくり・スポーツ推進特別委員会

委員長 中山 大 輔

健康づくり・スポーツ推進特別委員会中間報告書

本委員会の付議事件に関して、活動の概要を報告します。

1 付議事件

運動による介護予防等あらゆる世代の健康づくり及び大規模スポーツイベント開催やスポーツ関連施設の整備等スポーツの振興に関すること。

2 調査・研究テーマ

スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げについて

3 テーマ選定の理由

横浜市は、4つの多彩なプロスポーツチームが活躍している国内屈指の都市であり、世界トライアスロンシリーズ横浜大会などの国際大会が開催されるとともに、市民参加型のスポーツイベントも開催され、横浜マラソンには多くの申し込みがあるなど、市民のスポーツに対する関心は非常に高い。

また、ラグビーワールドカップ2019TMの決勝戦や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を控えている状況であり、大規模スポーツイベント開催に向けた機運の醸成やイベント開催に伴う経済効果、開催後にも残るレガシーの創出、国内外から訪れる皆様のおもてなしの仕方などの調査・研究が必要である。

さらに、全ての市民がスポーツに親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことができる社会の実現が望まれており、スポーツをする場所の確保やスポーツに接する機会も重要になるため、ふだんからスポーツに親しめる環境づくりも意識して調査・研究を行うこととした。

4 委員会活動の経緯等

(1) 6月9日委員会開催

平成29年度の委員会運営方法及び今年度の調査・研究テーマ案について委員間で意見交換を行った。

ア 議題

平成29年度の委員会運営方法について

イ 委員意見概要

- ・縦割りの部分で局の連携ができないという実情があると思うが、ラグビーワールドカップ2019TMと東京2020オリンピック・パラリンピックまであと2年間しかないという中で、ことし何をやるか、来年何をやるか、横浜市としてどういうおもてなしができるかということについて議論したい。さらに、両大会後のレガシーをどう残すかということについては非常に重要と思っている。
- ・去年も提案したがスポーツコミッション的なものや、フィルム・コミッションのスポーツ版みたいなものを横浜市役所か体育協会で作ったり、その中で、例えば小学生のラグビー全国大会をやりたいということになったときに、いろんな小学校をすぐに紹介してあげられるとか、あるいは高校や大学のグラウンドを借りられるなど、そういうオーダーをワンストップで対応できる仕組みがあればいいと思う。
- ・横浜国際総合競技場は、サッカー日本代表戦を埼玉スタジアムにとられてしまうケースが多い。これからラグビーワールドカップはやるが、横浜にラグビーのフランチャイズチームがあるわけでもないのに、やったらやりっ放しで終わってしまうのではないかという危惧がある。そういう中でも大規模スポーツイベントを誘致することでスポーツの裾野を広げていくことは大事だと思う。
- ・まちの道場やさまざまなスポーツ団体が地域にはたくさんあるが、参加する人数が足りなくてやめてしまう種目もある。今のこの世界的な大会を盛り上げる時期と同時に、地域のバレーボールチームや卓球チームなど、地域に身近なスポーツが盛り上がる施策が打てればと思っている。
- ・野球といえば甲子園、福岡だと柔道の大会、花園といえばラグビー、横浜はそういうものがない。市民が参加できる大きな大会を横浜でやれば、ホームでできるというアドバンテージがあるので、こういう大規模スポーツイベントの経験を踏まえて、全国の頂点として横浜を目指すような大会を築いていくことも一つのレガシーだと思う。
- ・横浜国際総合競技場をうまく活用しなければ税金の無駄遣いになるし、やはりつくってよかったねと言ってもらえるようにするのは我々議会の仕事ではないかなという思いがある。例えば多くのスタジアムの中にはミュ

ージアムというものがある。横浜国際総合競技場にもサッカーワールドカップのグッズやユニフォーム、サザンオールスターズのコンサート、AKBの総選挙に関連するものが飾ってあるので、これらをミュージアム的な形で整理してほしい。そして大規模スポーツイベントのレガシーも形に残すことで横浜国際総合競技場が使われていない日でも観光客が行って楽しめるように今のうちから準備しておく必要がある。

- ・市民が野球などスポーツをする場所を確保することが難しい状況だが、横浜市が所有している土地で活用できていないところや、学校予定地で確保していたが子供が減り不要となった場所を使うことができないのか。横浜市、国・県含めて、公の土地が地元の子供たち、お年寄りも含め市民が伸び伸びと、すがすがしく運動やスポーツをすることができる場になるよう検討をしたい。
- ・地域スポーツの裾野をどう広げていくか、さらに、グラウンドをどう活用していったらいいのかという議論が去年も同委員会に出ていた。昨年作成したスポーツ施設、運動場所等の一覧表を今年度の委員にも共有し横浜のグラウンドの使い方について検討をしたい。
- ・地域のスポーツチームは、少年野球やサッカーなどいろいろあると思うが、どういうチームがあり、どんな人がいて、どんな方が活躍しているというデータを地域のスポーツチームや学校の単位で見える化をする必要がある。違うスポーツ種目間での交流や情報共有をどうやって促したらいいのかということも含めて検討したい。これはメジャースポーツだけではなくマイナースポーツをどうやって広めるか、新しい仕組みづくりとしてITなど何を使うのかはあるが、横浜ベイスターズが言っているスポーツ掛けるクリエイティブという視点も持って検討をしたい。
- ・運動やスポーツの裾野を広げることは大切で、健康でいえば介護予防にもつながると思う。また、もう一つの指標としては、子供たちの運動能力について、全国でどこの地域が一番だとか発表される場面で横浜市が上位になるためにどのような取り組みをしたらいいか、高齢者と子供たちという両面で調査研究ができればと思っている。
- ・健康づくりとかスポーツについて各局の施策がいろいろあるが、それが全

体としてどういう効果を上げているのかという視点が必要ではないか。どうやって検証するかは、手法も含めて、まだ確立はしていないと思うが、例えば介護予防で何が効果的なのか、また横浜市全体とすれば、生活習慣病の指標がどうなっていて、健康づくりやスポーツの施策をすることによる健康面での効果をどうすれば検証できるのか調べる必要があると思う。体を動かすことで健康になるとか、自分たちのためにいいことだという、その効果の部分を見える化し検証することで、より多くの人が健康やスポーツをすることを促すきっかけになると思うので、他都市の事例も含めて検討したい。

- ・ラグビーワールドカップ2019™と東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて横浜ビジョンが策定されているが、その中に、障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことができるよう、広く社会全体に向けて障害者スポーツの推進に取り組みますという項目についての検討をしたい。

(2) 8月31日委員会開催

本年度の調査・研究テーマを「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」と決定した。また、昨年度の健康づくり・スポーツ推進特別委員会で委員会資料として用意した市内におけるスポーツ施設・運動場所等の一覧を再度委員会資料として配付し委員長が内容を説明した。その後、調査・研究テーマに関連する施策を行っている市民局からラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについて説明を聴取し、意見交換を行った。

ア 議題

平成29年度の委員会運営方法について（出席局・市民局）

【市民局説明】

(ア) 大会概要

ラグビーワールドカップは、1987年の第1回大会から4年に一度、ラグビー伝統国を開催国として開催されてきた。第9回となる2019年日本大会は、アジア初、ラグビー伝統国以外初、ラグビー7人制がオリンピック種目に採用後初の大会であり、横浜国際総合競技場で決勝戦が予定されてい

る。開催期間は、2019年9月20日から11月2日までの44日間で20チームが参加し、全国12会場で48試合の予定である。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックについては、横浜でサッカー競技を横浜国際総合競技場、野球・ソフトボール競技については、横浜スタジアムを主会場として開催される。開催期間はオリンピックが2020年7月24日から8月9日までの17日間、パラリンピックが2020年8月25日から9月6日までの13日間となっている。

なお、両大会とも、本市での具体的な試合数あるいはマッチスケジュールについては、まだ決定していない。

(イ) 両大会に係る本市の動向

平成25年9月に2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決定するとともに、サッカー競技が横浜で開催されることが決定している。平成27年3月にはラグビーワールドカップ2019[™]の開催都市に神奈川県・横浜市が決定した。

また、平成28年11月にはオール横浜の官民連携組織、ラグビーワールドカップ2019[™]東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会を設置して、両大会に向けて横浜市が目指す方向性を横浜ビジョンとして策定した。平成29年4月には、横浜ビジョン実現に向けて、横浜市が主体的に推進する必要がある取り組みを横浜市の取り組みとして策定し7月には、実務的な情報共有や検討のため、横浜開催推進委員会にラグビーワールドカップ2019[™]専門委員会及び東京2020オリンピック・パラリンピック専門委員会を設置し、第1回合同委員会を開催した。

(ウ) 両大会に向けた機運醸成の取り組み

ラグビー選手等の小学校訪問事業では、ラグビー競技の振興と機運醸成に向けて、市立小学校にラグビー元日本代表選手等を招聘し、子供たちと直接触れ合う事業を実施している。平成28年度から開始し、年間18回実施し、2年間で合計36回の実施予定となっている。オリンピック・パラリンピアンとの連携事業では、大会に向けた機運醸成とスポーツ振興を図るため、市立小学校にオリンピック・パラリンピアンを招聘して、授業や講演などを実施している。平成29年度からは新たに市立中学校も対象

としている。実施状況は、平成26年から今年度の実施予定までを含めると、市立小・中学校での特別授業等が合計141回、市内イベントでのトークショー等の実施が合計113回、4年間での実施回数は予定も含め254回となっている。

また、平成29年度のその他の機運醸成等の取り組みについては、ラグビーワールドカップ2019TM決勝戦1000日前イベントとして、平成29年2月5日にトークイベントやラグビー競技体験を実施し、参加者は1000人ほどであった。さらに、市庁舎における展示の取り組みとして、市庁舎1階市民広場にて、両大会の案内パネルや両大会の関連グッズ等の展示を行った。今後の主な取り組みとしては東京2020オリンピック・パラリンピックの象徴であるフラッグが、横浜市内を巡回するフラッグツアーを9月に実施する。平成29年11月4日には、ラグビー日本代表とオーストラリア代表との試合を横浜国際総合競技場で開催する。

イ 委員意見概要

- ・ラグビーワールドカップ2019TMの開催が迫っているが、まだまだ盛り上がりが出ていないという印象で、ことしの11月に行うオーストラリア代表と日本代表の試合が1つのメルクマールになると思う。また、サッカーの試合との関係では、芝の状況もサッカーとラグビーだと大分違うと思うがトップアスリートに最高のパフォーマンスをしていただくためには、やはり会場をきちんと整えることが大事である。横浜国際総合競技場の照明や芝生の整備などはロードマップをつくり、いつからいつまでは横浜国際総合競技場が使えなくなるとか、この時期はこんな工事をするとか、できるだけ早い時期にそういったスケジュールを公表することも大事だと思っている。うわさばかり先行しており、一体どうなるのだろうかということ、サッカーやラグビーの関係者から伺っている。
- ・吹田市にある市立吹田サッカースタジアムを視察してきたが、最近のサッカーのスタジアムは観客と選手の距離が近い。驚いたのは、市立吹田サッカースタジアムは4万人入るスタジアムだが、それを横浜国際総合競技場と比較すると、横浜国際総合競技場の客席の内側にある陸上トラックの中に市立吹田スタジアム全体がちょうど入ってしまう。これは市立吹田スタ

ジアムの一番後ろの席で見る人と、横浜国際総合競技場の最前列で見る人の選手との距離がほぼ変わらない状況となる。横浜国際総合競技場も本番に向けて、例えばランニングトラックの一部を観客席として開放するなど、臨場感あふれるプレーを間近で見る工夫をして、観客席と選手との距離を縮めるための努力が必要である。

- ・ソフトの部分についてどう機運を盛り上げるかについては、実際に競技場に足を運んでくれる層の人たちに対してのアピールがまだまだ足りない。小学校訪問事業で小学校に何回行ったという数字で、一生懸命頑張っているところは見えるが、小学生に対する事業はどちらかというところと長期的な視野で、将来的にオリンピックを育てるとか、ラグビーの選手を育成することにはつながると思う。しかし、これがラグビーワールドカップ2019™と東京2020オリンピック・パラリンピックの招聘事業のメインだと言われてしまうと、ちょっと違うのではないかという感覚がある。

特に東京2020オリンピック・パラリンピックに関しては、横浜はサッカーと野球とソフトボール、この3つに絞られている。ほかの競技を一生懸命、醸成や育成、機運を盛り上げることは多少横に置いてでも、ソフトボール、野球、それとサッカーに特化して取り組む必要があるのではないか。ほかをおろそかにするというのでは決してないが、メインをどこに持っていくか選択と集中的な考え方で予算を配分して、限られた予算の中でいかに横浜を盛り上げていくか考える必要がある。

- ・ラグビーの日本代表戦が11月4日にあるが、横浜国際総合競技場で5万人以上の人たちが来て代表選ができるのは、あと1回、2回、あるかないかだと思う。本番のシミュレーション的な意味でも大事な機会になるので本番と同じような形でシミュレーションをしてみるということが大事である。例えばロンドンの大会のときには競技場の外側にファンゾーンがあり、試合会場に入れなくてもスクリーンで観戦できて会場の周りではいろいろなイベントを朝から一日中楽しめる。去年、味の素スタジアムの試合のときには、1回それに近い取り組みをしており、東京都はそういうノウハウを積み上げなくてはという意識が非常に高い。横浜市も本番に向けたリハーサル的なことをして大規模イベントに向けた準備を進めてほしい。

- ・ 体育協会、港北区、慶應大学のラグビー部が協力して、小学生を対象にラグビー体験会を行っている。ラグビーは野球やサッカーに比べてまだまだ裾野が広がっていないので、少しずつでもこのような取り組みをやっていかなければいけないと思う。
- ・ 横浜市として、これから何をどれくらい解決していかなければいけないのか、全体像が見えてこない。ハードの面ではこれ、運営上はこれ、そして市民との関係として機運の醸成について課題を整理し、何が問題か議論することが必要である。横浜ビジョンは、表現が抽象的で目標的な感じもあるため、具体的に何をクリアしていかなければいけないという指標が必要である。これはハード面、ソフト面それぞれ事業費にもかかわることで、限られた財源の中でどのように財源を配分していくのかはすごく大事である。
- ・ 大規模スポーツイベントをきっかけにスポーツや運動に関心がない人を含めて市民にスポーツに接する機会や環境をつくれるのかどうか早目に課題を抽出し、そこに事業費を充てられるか整理した上で議論することが必要である。
- ・ 市民が地域の身近な場所でスポーツに親しめるのかということに問題があり、野球をやるにしても、場所がとれず探すのにほかの区まで行かなければならないこともある。市民のスポーツや運動にかかわる日常的な問題と、両大会を成功させようという話にはまだまだギャップがある。大規模スポーツイベントに向けて機運を盛り上げるというのであれば、日ごろ市民がスポーツに関して思っているいろいろな問題意識や課題についてどのようにアプローチできるのかという意識を持つ必要がある。
- ・ 大規模スポーツイベント開催に向けた機運の醸成やイベント開催に伴う経済効果、開催後にも残るレガシーの創出、国内外から訪れる皆様のおもてなしの仕方、これらを成功させるのは簡単な話ではない。民間であればイベントやいろいろなプロフェッショナルを巻き込む宣伝の仕方がある。イベントのプロの巻き込み方、それから有名人やメディアを利用するやり方など横浜を代表するような人を使って、横浜のためにうまく宣伝してもらうことも大切だと思う。

(3) 9月28日市内視察実施

ラグビーワールドカップ2019[™]と東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、横浜国際総合競技場を視察し、競技場の魅力づくりや安全を確保するための会場整備状況について説明を聴取した。

(4) 9月28日委員会開催

横浜国際総合競技場を視察した感想や意見交換を行った。

ア 議題

調査・研究テーマ「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について（出席局・市民局、環境創造局）

イ 委員意見概要

- ・ラグビーワールドカップ2019[™]のために改修費を約8.3億円投入し、横浜国際総合競技場の芝をハイブリッド芝に張りかえるが、FIFA、Jリーグ、日本サッカー協会もハイブリッド芝を推奨し、神戸や埼玉もこれから変わっていくという話なので、今後も世の中の動向をしっかりと見きわめながら、よりよくなるようにする必要がある。
- ・横浜国際総合競技場をラグビー競技に適したハイブリッド芝に改修するがプロスポーツ選手は環境が変わることにすごく敏感だと思う。Jリーグの選手は、今の天然芝とハイブリッド芝で変わったと感ずることもあると思うので、できるかぎり違和感がないように改修してほしい。
- ・練習に使うサブグラウンドの小机競技場は2時間使ったら芝生を休ませなければいけないという規制があるので、もし稼働を上げるのであればハイブリッド芝への張りかえも考えてほしい。
- ・2002FIFAワールドカップ[™]のときの芝生をプラスチックに入れたものをメモリアルとしていただいたことがある。今回芝生をハイブリッド芝にすることで不要となる芝はいろいろな活用の仕方があると思うが、横浜国際総合競技場の価値は、ワールドクラスだと思っている。普通の芝とは違う価値があると思うので子供たちに夢を与えるような活用の仕方など検討してほしい。
- ・市内視察の資料は、全部日産スタジアムと書いてある。ネーミングライツ

で日産スタジアムとなっているとは思いますが、国際的な大きな競技のときは横浜という名前が世界に知られたほうがいいと思う。横浜国際総合競技場は言いにくいけれども、横浜日産スタジアムとか日産横浜スタジアムとか、パンフレットに横浜と入れられないのか、市民の税金で建設費も維持管理費もやっているの、横浜という名前を世界に知ってもらおうという意味でも大事な機会だと思う。

- ・横浜国際総合競技場のピッチに立ってみると、ラグビーやサッカーの競技をするピッチから観客席が随分遠いという印象があるので、フィールド内に観客席をつくれるような工夫を考えてほしい。例えばラグビーをやっている高校生や小学生などに招待席みたいな形で入れてあげる工夫をすることで観客動員数がふえる部分とピッチと観客席が遠いことを少し払拭できるのではないか。横浜以外にもランニングトラックがある競技場はあると思うので、一緒に研究しなから共同提案でも構わないのでワールドラグビーや日本ラグビー協会に企画を提案してはどうか。
- ・歴史のあるスタジアムでミュージアムがきちんとつくられているのは、世界標準ではないかと思う。横浜国際総合競技場ではサッカーのワールドカップの決勝戦をしたことに加えラグビーワールドカップの決勝戦も行う。サッカーのクラブワールドカップ決勝戦も行うなど世界の中でも傑出している大会開催場所ではないかと思う。ミュージアムに関しては来年度あたりから調査費ぐらいは計上して、将来的にはどういう形をつくったらいいか見据えた中での検討が必要である。
- ・横浜国際総合競技場のロッカールームにブラジル代表選手のユニフォームが飾ってあるが、まだまだ存在が知られていないのではないか。もっと横浜市民だけではなく全国に向けて、サッカーファンが見たら感動するような取り組みが必要である。ラグビーワールドカップ2019™の決勝戦を行い世界的なスタジアムになるので、小手先の改革ではなくて両大会が終わった後に、試合があってもなくても人が集まるような観光名所になるアイデアを市民の協力もいただきながら考える必要がある。
- ・20年前は、サッカーだけではなく、国体などいろいろなことがあって横浜国際総合競技場ができサッカーワールドカップの決勝戦を誘致すること

ができた。しかし20年たってスタジアムのあり方も変わっている。横浜国際総合競技場の魅力は2002年にサッカーワールドカップの決勝戦をやったということ、そして多くの人数が入れる大規模なメリットも生かしながら今後のことを考えると、どうしても大きなスポーツイベントを誘致していかなければいけないと思う。東京2020オリンピック・パラリンピックではサッカーを行うことが決まっているが、当然日本戦を取りにいかなければいけない。サッカーの決勝戦の場所は東京の新国立競技場の予定となっているが、閉会式の関係で難しいという話もある。しっかり情報収集して、東京オリンピックのサッカー決勝戦を本気で取りに行くことが必要だと思う。

- ・市立吹田サッカースタジアムのVIP席には、座布団が敷いてあるが、横浜国際総合競技場のVIP席は、プラスチックがじかに肌に当たるのでおもてなしという観点から見てもこのままでいいのかと感じている。クラブワールドカップやラグビーワールドカップ2019TMの決勝戦も寒い時期の開催であり、大きな経済効果を生み出すかもしれない方々が座る席でもある。少しの工夫がおもてなしにつながり場合によっては経済効果にもつながる可能性もあると思う。

(5) 11月30日委員会開催

ラグビーワールドカップ2019TM・東京2020オリンピック・パラリンピックの課題及び横浜国際総合競技場の会場整備状況報告について、各事業所管局から説明を聴取し、その後意見交換を行った。

ア 議題

調査・研究テーマ「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について（出席局・市民局、環境創造局）

【市民局説明】

ラグビーワールドカップ2019TM・東京2020オリンピック・パラリンピック両大会の成功に向けて、大会の開催準備を初め、スポーツ振興、文化芸術振興、横浜の魅力・活力を世界に発信することを通じて、横浜の飛躍につなげるためオール横浜で取り組んでいくことを平成28年11月に横浜ビジョンとし

て策定し、取り組みの方向性や課題について、テーマ別に取り組みの4つの柱として整理した。

取組の4つの柱

1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

(1) 関係機関と連携・協力による本市で開催される競技の円滑な大会運営 (※1)

- ※1・競技会場における各種計画（危機管理、交通輸送、救急医療等）の策定・実施
- ・競技会場における必要な整備
- ・ボランティアの育成、活用等

(2) 両大会に向けた機運醸成 (※2)

- ※2・全市レベルのイベントの企画・実施（カウントダウンイベントの展開等）
- ・区レベルの取組の推進

(3) トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流の推進、国際人材の育成

2 スポーツを通じて横浜を元気に

(1) ラグビー競技の普及、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興 (※3)

- ※3・ラグビー元日本代表、オリンピック・パラリンピアンとの交流による子どもたちの運動意欲の向上
- ・横浜文化体育館の再整備によるスポーツの場の拡充
- ・総合型地域スポーツクラブの育成・活動支援

(2) 障害者スポーツの推進

(3) 子どもたちの運動に親しむ資質や能力の育成、体力の向上、スポーツに関わる人材の育成

(4) スポーツなどを通じた健康づくりの推進

3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

(1) 文化プログラムの実施によるまちの賑わいの創出と横浜の魅力の発信

(2) 子どもたちの文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援による次世代育成

(3) 市民の地域文化芸術活動への参加、いきいきと活動できる環境の整備、文化芸術活動への支援

(4) 創造的人材と企業や地域との協働、創造的産業の集積・振興、創造性を生かしたまちづくり推進

4 横浜を世界に魅せる

(1) 「横浜ならではの」魅力・コンテンツの発信による「千客万来のまちづくり」の推進

(2) 来訪者の滞在環境の向上 (※4) や来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくり

- ※4・多言語対応
- ・通信環境、案内サインの整備

(3) 再生可能エネルギー等の活用など世界のモデルとなるスマートシティの実現

(4) 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市横浜の発信

（委員会資料より抜粋）

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

関係機関と連携・協力し、円滑な大会運営に取り組むとともに、競技会場等について、必要な設備更新や、観戦者を含む来街者の円滑な移動等に向けたバリアフリー対応などに取り組めます。



<横浜国際総合競技場>

- ラグビーワールドカップ2019TM決勝戦の開催に向けた照明設備を更新し、競技場の魅力づくりを図ります。
- 国際大会の開催時の安全や機能を確保するため、競技用の場内放送設備等の保全工事やトイレの増設、洋式化やテレビ放送関連設備の更新などを実施します。



©YDB

<横浜スタジアム>

野球・ソフトボールの開催に向けて、大会組織委員会等と調整を行います。

節目ごとのイベントの開催や、各区における盛り上げイベント等の実施により、両大会に向けた機運醸成を図ります。



ストリートラグビー体験
(横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2016)



パラリンピック競技(ブラインドサッカー)体験
(横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2016)

節目ごとのカウントダウンイベントの開催や、各区における機運醸成イベントの実施、区民まつり等各種既存イベントと連携したPR活動、パラリンピック競技体験の実施などにより、両大会に向けた機運醸成を図っていきます。

関係団体と連携しながら、英国オリンピック代表チームの事前キャンプを受入れます。



横浜市において、東京2020大会における、英国オリンピック代表チームによる事前キャンプが実施されます(※1)。横浜市では、適切な練習環境の提供など、英国チームをしっかりと迎えるとともに、英国のホストタウン(※2)として、スポーツ、文化、教育の分野など幅広い交流機会の創出を目指します。また、英国の実施状況を見極めながら、更なる受け入れについても、調査・検討を進めます。

※1 平成29年3月、英国オリンピック委員会との間で、横浜国際プールにおける英国代表チームによる事前キャンプ実施に関する契約を締結

※2 平成28年1月、国主導の制度「ホストタウン構想」に登録済み

(委員会資料より抜粋)

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと、小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上に取り組みます。

東京2020大会の開催に向けて、オリンピック・パラリンピック出場経験者を招へいたイベント開催するなど、市内のスポーツ振興と大会の機運醸成を図ります。

また、はまっ子スポーツウェーブ（小学校体育大会・小学校水泳大会等）や中学校総合体育大会などにオリンピック・パラリンピック出場経験者等トップアスリートを招へいし、演技の実演や講演を実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。



写真上
オリンピックによる学校訪問
（走り方教室）



写真右上
パラリンピアンによる学校訪問（講演）

写真右下
はまっ子スポーツウェーブへのオリンピックの派遣

ラグビーワールドカップ[®]出場経験者による講演・タグラグビー実技授業



ラグビーワールドカップ2019[®]の開催に向けて、市内の小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。



学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発に取り組みます。

障害のある方がいつでも身近な地域で障害者スポーツを行えるようにするため、各区スポーツセンターや地区センターなどの地域資源と連携を進め、障害者スポーツを行える場を確保するとともに、自主的に取り組みやすい種目を地域に広げていきます。

また、障害の有無に関わらず共に楽しむことができるよう、障害者団体や競技団体、地域スポーツ団体と連携しながら、誰もが安心して参加できるスポーツイベントを検討し、実施します。

写真右
ボッチャ交流会
（障害者スポーツ文化センター横浜ラポール）



（委員会資料より抜粋）

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

横浜トリエンナーレ、横浜芸術アクション事業など文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムの実施により、まちに賑わいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します。



写真左
ヨコハマトリエンナーレ 2014 マイケル・ランディ
《アート・ピン》2010/2014/撮影：加藤健



写真上
Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015
横浜ダンスパレード photo: bozzo



写真左
横浜音祭り2016 西本智実指揮
イルミナートフィルハーモニーオーケストラ
(c)oono ryusuke

横浜トリエンナーレ（現代アート）・横浜芸術アクション事業（ダンス・音楽）といった横浜らしい特色ある芸術フェスティバルを継続的に開催し、「文化芸術創造都市・横浜」のプレゼンス向上を図ります。

子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援など学校や地域で次世代育成に取り組みます。また、文化芸術の創造性を生かし、障害のある方が新たな芸術表現を生み出す現代アートの国際展の開催や文化芸術活動に参加するためのネットワークづくりを進めます。



芸術文化教育プログラム推進事業 実施の様子
(市立末吉小学校/美術 (造形))

学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを展開し、芸術文化の力により次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成します。



ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014
photo:427FOTO

障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルの協働により新たな芸術表現を創造・発信するとともに、横浜トリエンナーレとも連携し、まちの賑わいと祝祭感を創出します。

（委員会資料より抜粋）

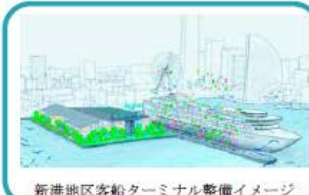
柱4 横浜を世界に魅せる

外国人観光客も含め、多くの来街者が、迷わず、円滑に目的地に到達できるための案内環境の整備や、Wi-Fi整備による通信環境の向上に取り組みます。



- ・案内サイン等の整備に取り組みます。
 - ◇都心臨海部及び新横浜周辺地区において、施設管理者や鉄道事業者などの関係者と連携し、道路・公園・鉄道駅等の案内サインの多言語化、統一化、連続性の確保など、来街者にとって分かりやすい歩行者用の案内・誘導サイン整備の実施
 - ◇市営地下鉄駅構内案内サインのリニューアル
- ・Wi-Fi環境を整備します。
 - ◇みなとみらい21地区等
 - …主要な歩行者空間等における、Wi-Fiの早期整備
 - ◇都心臨海部、新横浜
 - …公民連携による、来訪者の利便性向上に資する通信環境整備

客船受入機能の強化やMICE機能の強化、地区内の回遊性向上等により、多くの人を惹きつける都心臨海部のまちづくりを推進します。



MICE施設イメージ図(20街区)
※本イメージ図は2017年1月末時点の情報をもとに作成。
今後変更される可能性があります。

- ・客船受入機能を強化するため、大さん橋国際客船ターミナルのサービス拡充、新港地区客船ターミナルの整備、大黒ふ頭の自動車専用船岸壁を活用した超大型客船受入施設の整備を実施します。
- ・横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地(みなとみらい21中央地区20街区)に新たなMICE施設を整備します。
- ・都心臨海部において、来街者の利便性を更に高めるため、「高度化バスシステム」(連節バスを活用した新たな交通)を導入します。

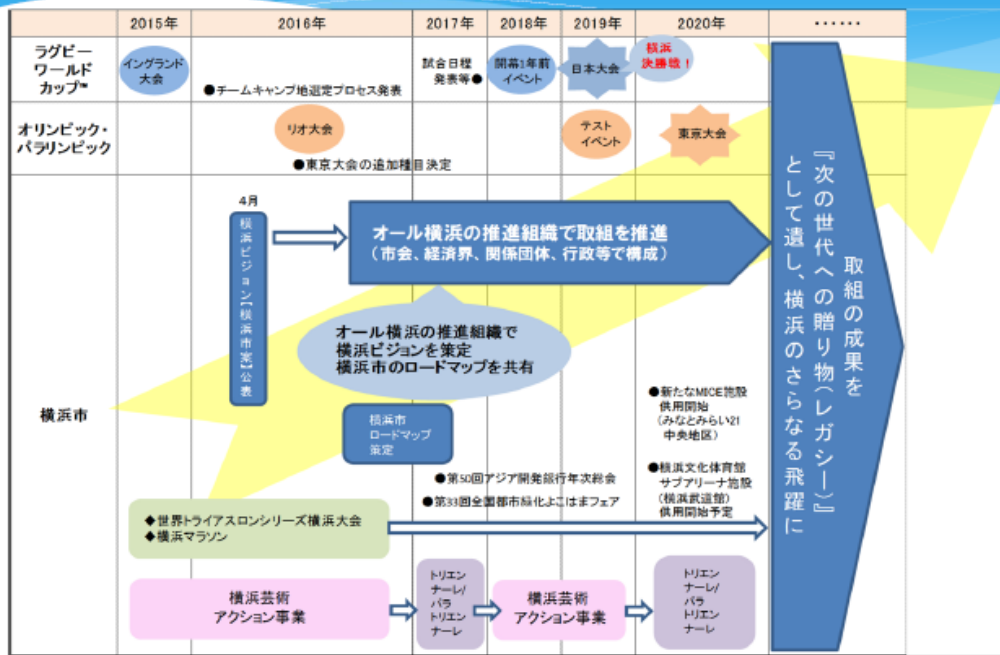
きれいな街並みに向けた環境整備に取り組みます。



- ・会場周辺において、清潔な街並みによる居心地の良い環境の実現に向けた取組を実施します。
 - ◇歩道や市所有地・市所有施設について、大会期間にあわせた清掃等の実施
 - ◇会場周辺や繁華街などのエリアについて、大会期間中、昼間の時間帯にごみが置かれないよう、焼却工場に夜間搬入可能な環境整備の実施
 - ◇多くのお客様を迎える場所の、望ましい公共的機能(公衆トイレ・喫煙所)の検討、整備
 - ◇公衆トイレ案内の多言語化、外国人向け利用マナー表示板の設置及び洋便器化の推進
 - ◇大会期間にあわせてポイ捨て・歩行喫煙防止パトロールを集中的に実施するほか、臨時喫煙所を設置
- ・喫煙禁止地区の標識・標示・看板等の多言語化を推進します。

(委員会資料より抜粋)

主なスケジュール



- * リオデジャネイロ2016大会後に、市会、経済界、関係団体等の皆様と行政によるオール横浜の推進組織を立ち上げ、横浜ビジョンを策定し、オール横浜でラグビーワールドカップ2019TM・東京2020大会に向けた取組を推進していきます。あわせて、横浜市の取組をとりまとめたロードマップについてもオール横浜の推進組織で共有します。
- * 2019年・2020年までの間には、第33回全国都市緑化よこはまフェアや第50回アジア開発銀行年次総会等が行われます。こうした様々な機会を生かしながら、2019年・2020年に向けて横浜のさらなる飛躍に取り組みます。

(委員会資料・横浜ビジョンより抜粋)

【環境創造局説明】

横浜国際総合競技場の会場整備状況に関連する平成29年度の事業概要と契約額について説明があった。

横浜国際総合競技場の会場整備状況報告

横浜国際総合競技場の会場整備の状況については、次のとおりです。

平成29年11月17日現在

整備項目	内容	契約（予定）額	
1 照明設備の更新	競技用照明をLED照明に更新し照度を向上をします。	26億7千万円	
2 フィールド床の補強	照明設置に伴い大型クレーンを使用するため、トラック部分の床を補強します。	1億8千万円	
3 ラグビー競技にも適した芝の整備	決勝戦を含む複数試合の使用に耐えるハイブリッド芝を開発・育成します。	1億3千万円	
4 安全・機能確保のための保全等	①～⑪の工事等	53億9千万円	
内訳	① 競技用放送設備更新	2階天井スピーカーの更新	2億5千万円
	② エレベーター更新	高速化・バリアフリー化	2億8千万円
	③ 特定天井改修	法改正による天井の改修	6億8千万円
	④ 空調設備更新	個別空調設備の更新	1億8千万円
	⑤ トイレの増設	4階コンコースメイン及びバック部分のトイレ室の改良、男女共用多機能トイレ増設	5億6千万円
	⑥ トイレの改修※	4階サイド部分、5階、6階のトイレの洋便器化	5億8千万円
	⑦ スタンド改修※	1層目のVIP席、記者席、一般観客席（メイン・バック）の更新	5億3千万円
	⑧ その他照明設備の更新※	諸室及び外周部のLED照明への更新	6億6千万円
	⑨ 映像装置の改修	大型映像装置の改修及び大型映像を補完する表示装置の設置	4億6千万円
	⑩ 電気設備の更新	人工地盤のアンプ・スピーカーの更新、電気室の改修、電話交換機の更新、BS放送への対応、光ファイバーケーブルの敷設	4億9千万円
	⑪ その他設備の修繕、設計委託、工事監理等※		7億2千万円
契約（予定）額合計		83億7千万円	

※ 整備項目については契約手続き中の工事等が含まれています。

【参考】

平成29年度事業費		83億7千万円
国庫補助事業費（補助率1/2）	（平成28年度12月補正予算を29年度に繰り越し）	75億9千万円
市単独事業費	（平成29年度予算）	7億8千万円

（委員会資料より抜粋）

イ 委員意見概要

- ・横浜国際総合競技場の整備費用については、大規模イベント開催のため想定してない経費が後から出てきて事業費が膨らんでしまうことを懸念している。限りある横浜市の財政状況にあって、結局大きなことはやらざるを得ないから、そちらに予算がいっぱい引っ張られることによって、市民のスポーツへの取り組みや身近なところでの健康づくりができる環境整備がおろそかになってしまいうことが起きないか心配している。大規模スポーツイベントにかかる事業費は今後の見通しと、その枠の中でどうコントロールするかを意識しなければならない。
- ・子供や障害者の方など身近なところでスポーツに親しめるような環境については、草野球をやる場所1つ探すのに苦労しているという状況や車椅子で公園に入れなとか体育館に行くのも大変という問題等がある。すぐに解決はできないけれども、大規模スポーツイベントをきっかけに、5年後には公園のバリアフリー的なものはこれぐらい進むとか、それによって障害があっても外でいろいろ体を動かせる環境をつくろうとか、具体的な目標や計画が必要ではないかと思う。
- ・横浜市が保有する未利用地をどう使うかはとても大事で、将来何に使われるかは全庁的な議論が必要である。財政的に寄与をするという意味では、即売却で現金にしてしまうという話になるが、売却の前に市民利用ということをもっと優先的に考えるべきである。スポーツや子育て、学童保育も場所が足りない中で、市民の利用に資する土地があるのかなのか、もっと市民にも見える形での議論が必要である。
- ・オリンピックだけでなくパラリンピックも盛り上がっているが、スポーツをするきっかけがつかれない、一歩表に出られない、場所もないなどの話をよく聞く。障害者やその御家族の方たちも含めてきっかけづくりや、どういうところが大きな課題になっているのか、スポーツや運動をする場所に足を運んでいただいて、その施設の使いづらいつころを指摘していただく機会を持ってほしい。工夫をすればバリアフリーも含めて、学校の使われていない場所など各区でも身近なところでスポーツをする場がつけられると思う。

- ・大規模スポーツイベントで競技する人やスポーツを見に来る観光客も含めて外国人がかなりふえてくると思うが、外国人が救急医療にかかるときに言葉、保険、医療費が難しい課題となっている。国際都市横浜と言いながら、外国人の救急医療は難しいとか、命がかかって大変なときに、うちでは診療できないという情けない話はない。横浜市内の病院でも診てくれるところはふえてきているが、外国人に適切な医療をどう提供するか医師会、病院協会の先生方を含めてこれから検討していく必要がある。
- ・ラグビーワールドカップ2019[™]とオリンピック・パラリンピックでは、外国から来る記者やメディアセンター対応はどうするのか。外国の記者はかなり長期間滞在するが、試合がないときに日本について取材したいという意欲がある。その中で横浜の魅力を発信してもらうためにも、取材してくださいというさまざまな情報を用意しておけば、広報費をほとんど払わずに横浜の魅力発信ができるのではないか。
- ・ラグビーワールドカップ2019[™]では海外から40万人程度の観戦者が見込まれるが、泊まるのは横浜ではなくて東京のホテルというケースが多い。もともとの企画の中で横浜に泊まってもらうとか、観光政策とラグビーワールドカップ2019[™]がどこまで連携し横浜というまちをどう楽しんでいたかも含めて海外に売り込むための商品を提供しないとうまくいかないと思う。
- ・ボランティアの育成・活用については、まず人数を確保することが課題だが、同時におもてなしの質を上げていくことも考えなければいけない。宮古島市の全日本トライアスロン宮古島大会では島民が5万人ほどで、そのうちの10人に1人、約5000人がボランティアに参加しており、まちを挙げて全体で応援していくような雰囲気になっていると伺った。選手や応援に来る方々が長期間滞在していただけるような工夫として、大会前の開会式と懇親会をセットにし、沖縄らしい形でおもてなしをし、閉会式は大会の次の日にするなど、いわゆるレセプションをどう盛り上げるのか、どうやって楽しくするのか、参加率を上げるのかということなどの重要性を視察の中で感じた。ボランティアをふやすことと、ボランティアのおもてなしの内容についてはホスピタリティがあり、また横浜に来たい、温かいま

ちと思われるような工夫をする必要がある。

- ・宮古島市のスポーツ推進計画について視察をしてきたが、横浜市のスポーツ推進計画との一番の違いは、いろいろな意味で漠然とした話ではなくて、数値でどこを目標にするのか宮古島市の計画には具体的に書かれていた。横浜市は若干数値目標が少ないと感じている。今後の改善だと思うが横浜市のスポーツ推進計画は極めて大事なものなので、数値目標の整理をして計画の見直しをしてほしい。
- ・横浜国際総合競技場は、包括外部監査で指摘事項があり保全計画が監査報告書の中に書かれている。この中で平成24年度は収支10億円の赤字、平成25年度は12億円の赤字、平成26年度は11億円赤字、過去3年だけで30億円以上の赤字になっている。収支を抜本的に改善するような見直しをしなければならないが、毎年の改修も必要だと思う。テナントを入れて収入を得られるようなインフラに変えるとか寄附を受けるなど、海外の事例などもぜひ調査をして改善していく必要がある。
- ・ラグビーワールドカップ2019™は2年先、東京2020オリンピック・パラリンピックは3年先で時期が決まっているが、その割にスケジュールが見えてこないというのが一番大きい課題かと思っている。準備の段階で何をしていくか、イベントや事前キャンプ、ボランティア、それと大会の期間中に何をやるか、大きく3つに分けて整理をしていく必要があるのではないかと思う。イベントのプレスリリースで情報としては単発的にポツポツ来るが、あと2年間というカウントダウンの中で、いつ何をやるというスケジュールを出してもらい、それにかかわる恒久的な整備に横浜市として負担しなければいけないもの、県に負担してもらおう部分、国がお金を出す部分、組織委員会が負担してやっていくことも当然出てくるし、企業やスポンサーシップによって賄う部分もあると思う。そういったところの整理をしていかないと、最終的にどんぶり勘定でやって、終わってみたらお金がこんなにかかったということになるのを、東京2020オリンピック・パラリンピックでもマスコミでは懸念している部分もあるので、ぜひ早急に整理をする必要があると思う。
- ・大規模スポーツイベントで横浜青年会議所、商工会議所、ライオンズクラ

ブ、ロータリークラブの人たちは、協力したい気持ちはあるが、どういうメニューがあり自分たちがやれることが何かわかっていない。また、ボランティアを集めるのは大切だけれども、既にある市民団体が何か相談する窓口も現状はない状況である。イベントをやる力を持っている人たちに能力をきちんと発揮してもらうことも行政としての責任の部分だと思うので、具体的に何のイベントをやるか、誰が主体となっていつやるのかなど早く発表してほしい。

- ・横浜ベイスターズがクライマックスシリーズで広島に勝って、いよいよ日本シリーズというときに金沢区役所や市民局と相談して、八景島のスクリーンでパブリックビューイングができないか相談したが日本シリーズが始まるまでの期間が余りにも短過ぎてできなかった。しっかり今から準備をしておけば、パブリックビューイング的なことは、例えば八景島でかなり高い確率でできると思う。ラグビーに限らず野球やサッカーでも実績を積むことで、お客さんが定着をしていけば、ラグビーのときにファンゾーンをそこでやれば皆さん集まってくれると思う。
- ・横浜国際総合競技場で大規模スポーツイベントをやっていることがあったとしても、ほかの周辺区の人たちはなかなか関心が薄い。大規模スポーツイベントの機運の高め方として、大きいスクリーンを使いみんなで応援する場はもっとたくさんあっていいのではないか。あまりやり過ぎて競技場そのものにお客さんが来なくなっても困るが、横浜市18区それぞれに盛り上がり広がるような工夫は、それが一番早いような気がする。プロ野球は頻繁に試合があるので、実証実験的なことを始めればまだ間に合うと思う。大きなスポーツイベントで横浜全体を一体化させるための一つのレガシーをつくれるのではないか。
- ・競技会場における各種計画、危機管理、交通輸送、救急医療等については、当然計画を策定し実施は本番になるかと思う。どこにこの指示は出せばいいか、必要な機材はどこに発注すればいいか、意外に専門家が集まってもわからないということもあるのでシミュレーションも含めて訓練体制をとってほしい。
- ・大規模スポーツイベント開催に向けてメルクマールになるようなものとし

て何が足りていないか、それが共有されないと、オール横浜で取り組めない。ロードマップの共有が、まさにオール横浜で推進するかなめになっているので、横浜市の取り組みを毎年柔軟に改定するというのは、まさに点検・評価ができず進捗もわからないのではないか。オール横浜でいろいろな市民や企業が能動的な取り組みや創意工夫をしようと思ったら、単年度、単年度で柔軟にということではなく、全体に向けて少なくともこれをやりたいので、皆さんのアイデアとか御意見もくださいという姿勢でやらなければ、オール横浜の取り組みにならないのではないか。

(6) 2月9日委員会開催

調査・研究テーマに関連して、市が保有する土地の未利用地の現況について市民局が調査した結果の説明を聴取し意見交換を行った。

また、調査・研究テーマ「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」の委員会中間報告書構成案について意見交換を行った。

ア 議題

調査・研究テーマ「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について（出席局・市民局、財政局）

【市民局説明】

スポーツができる環境づくりに関連して、財政局保有土地一覧（平成28年度末現在）から、①保有面積が1000平米以上のもの、②事業の状況が事業中、供用済み以外のもの、③貸し付けの状況が未決定及び一部暫定利用、一部地元開放、一部町の原っぱとして利用中、この3点の条件を満たすものを抽出し、所管課に土地形状（平地、傾斜地、樹林地等）及び暫定的利用の可能性についてヒアリングを実施した。なお、交通局及び水道局についてはヒアリングを実施したが、該当する土地はなかった。調査結果については、財政局保有土地一覧に掲載されている土地は930カ所あり、抽出条件を満たしているものが52カ所で所管課にヒアリングを実施した結果、暫定的な利用が検討できる土地は8カ所だった。暫定的な利用が検討できる土地については、別紙財政局保有土地一覧（抽出版）の網掛け部分である。

財政局保有土地一覽（抽出版）

別紙 1

	区	町名	地番	保有面積 (㎡)	所管局・所管課	貸付の状況	現状	暫定利用の可否	その他・備考
1	神奈川	三ツ沢上町	156外	7,523.20	健康福祉局環境施設課	一部暫定利用中	傾斜地。市道を挟み南北に分断。	不可	
2	西	みなとみらい五丁目	52街区外	73,518.47	財政局管財課	一部暫定利用中	公募売却及び事業中	不可	
3	中	山手町	22-3,6	1,327.08	財政局管財課		売却に向け調整中	不可	
4	南	永田東二丁目	1345-10.44外	1,065.15	財政局管財課		更地（擁壁上宅地）		住宅地に隣接
5	南	蒔田町	1018-85,1023-24	1,210.57	財政局管財課		貸付け予定	不可	
6	港南	上大岡西二丁目	339-1外5	1,095.20	財政局管財課		貸付け予定	不可	
7	俣土ヶ谷	今井町	486-1	2,920.77	環境創造局緑地保全推進課		傾斜地（樹林地）	不可	
8	俣土ヶ谷	岩崎町	41-1	1,958.71	道路局企画課		がけ地（樹林地）	不可	
9	俣土ヶ谷	狩場町	118-1外	1,084.57	道路局河川事業課	一部暫定利用中	暫定利用中	不可	
10	旭	桐が作	1527-1外	1,595.07	財政局管財課		更地（宅地状に5段に整備済）	不可	
11	旭	川井本町	126-1	1,919.81	財政局管財課		貸付け予定	不可	
12	磯子	岡村四丁目	800-1	4,168.10	環境創造局緑地保全推進課		建物あり（解体中）	不可	
13	磯子	岡村七丁目	1452-107外5	2,301.88	財政局管財課	一部地元開放	貸付け予定	不可	
14	磯子	洋光台五丁目	3-1外3筆	3,981.33	財政局管財課	一部暫定利用中	公募売却中	不可	
15	金沢	東朝比奈一丁目	2398-21外	1,240.88	財政局管財課		更地		住宅地に隣接
16	金沢	釜利谷南二丁目	1533-128,1628-15	2,522.02	財政局管財課		貸付け予定	不可	
17	港北	篠原町	1051外10	2,605.16	都市整備局都心再生課		更地		住宅地に隣接
18	港北	篠原町	2572-4外	2,164.51	都市整備局都心再生課		樹林地（一部更地）	不可	
19	港北	師岡町	401-5,402-3	1,094.71	道路局企画課		がけ地（樹林地）	不可	
20	緑	寺山町	910-15	1,983.51	財政局管財課		傾斜地（樹林地）	不可	
21	緑	北八朔町	1047-1,1048-4	1,835.87	財政局管財課		更地（一部傾斜地あり）		住宅地に隣接 一部傾斜地あり
22	青葉	美しが丘西三丁目	3-11	1,148.00	財政局管財課	一部暫定利用中	利用していない部分は変形地	不可	
23	青葉	荇子田二丁目	31外	11,432.00	教育委員会教育施設課		更地		住宅地に隣接 平成21年度までは地域開放の実績あり
24	青葉	大場町	909-2	1,385.37	財政局管財課		更地（一部傾斜地あり）		住宅地に隣接 一部傾斜地あり
25	青葉	奈良町	1490-1,2	1,001.44	道路局河川事業課		がけ地	不可	
26	都筑	あゆみが丘	9	5,969.00	財政局管財課		傾斜地	不可	
27	都筑	早濶一丁目	16-10	2,280.85	道路局企画課		暫定利用中	不可	
28	都筑	早濶二丁目	18-29外2筆	1,122.91	道路局企画課		分譲地	不可	
29	戸塚	上柏尾町	215-3,216-2	1,702.43	財政局管財課		傾斜地	不可	
30	戸塚	上倉田町	1395-2,1426-5	1,171.71	道路局企画課		がけ地（樹林地）	不可	
31	戸塚	下倉田町	1474-153外36筆	7,064.58	道路局企画課		分譲地	不可	
32	戸塚	下倉田町	1954-2外	2,388.05	道路局企画課		がけ地（樹林地）	不可	
33	戸塚	下倉田町	1855,1858,1956外	1,147.90	道路局企画課		がけ地（樹林地）	不可	
34	戸塚	原宿五丁目	2279,2281	1,502.70	財政局管財課		敷地中央に水路敷あり	不可	
35	戸塚	東俣野町	60-2外	13,684.57	環境創造局緑地保全推進課		傾斜地（樹林地）	不可	
36	栄	飯島町	1648外	6,113.61	道路局企画課	一部暫定利用中	がけ地（樹林地）	不可	
37	栄	笠間三丁目	601-2外4筆	5,565.76	財政局管財課	一部暫定利用中	公募売却予定	不可	
38	栄	公田町	1089-4	3,459.00	財政局管財課		がけ地（樹林地）	不可	
39	栄	田谷町	1436-1	2,013.11	環境創造局緑地保全推進課		傾斜地（樹林地）	不可	
40	栄	東上郷町	894-51	1,169.59	財政局管財課		更地		住宅地に隣接 近隣の「まちはのらっぼ」は、H29年度に廃止
41	栄	東上郷町	992-219	1,065.03	財政局管財課		変形地	不可	
42	栄	飯島町	461-8外17筆	2,796.67	道路局企画課		がけ地（樹林地）	不可	
43	栄	飯島町	1863-3	1,215.61	財政局管財課		更地（敷地内に斜路あり）	不可	
44	栄	本郷台三丁目	2767-42	3,973.15	道路局企画課		分譲地	不可	
45	栄	本郷台五丁目	245,331,332外	2,212.71	道路局企画課		分譲地	不可	
46	泉	中田北二丁目	2114-1外	1,852.90	財政局管財課		更地		住宅地に隣接
47	泉	中田西四丁目	317-7	1,083.29	道路局企画課		樹林地	不可	
48	泉	中田東一丁目	1616-1外	12,705.21	建築局住宅政策課	一部町のほらば	傾斜地（樹林地）、水路あり	不可	
49	瀬谷	阿久和西四丁目	1-36外1筆	1,043.44	道路局企画課		暫定利用中	不可	
50	瀬谷	阿久和南四丁目	9-5外7筆	3,646.37	道路局企画課		変形地	不可	
51	瀬谷	上瀬谷町	47-7外23筆	12,239.82	建築局市営住宅課	一部暫定利用中	利用していない部分は変形地	不可	
52	瀬谷	下瀬谷二丁目	25-13外2筆	10,080.50	建築局住宅政策課		傾斜地（樹林地）	不可	

（委員会資料より抜粋）

イ 委員意見概要

- ・ 暫定利用可能な8件の土地は、住宅に隣接しているためサッカーや野球などの球技は難しいが、体を動かす場としての活用なども含め積極的に市民に使ってもらうための検討をしてほしい。また、スポーツ推進を行政として進めるに当たって、地域に維持管理の負担をさせるのではなく横浜市の施設や公園などとして位置づけ、利用者の負担を軽減することも検討してほしい。
- ・ 横浜市が保有している未利用地はフェンスで囲い施錠し市民が入れないようになっているが、空いている土地が入れない状態になっていることはもったいないので、早急にスポーツや健康づくりの利用だけではなく災害対策として広域避難場所など未利用地の活用を進めてほしい。
- ・ 学校予定地を独占的に使っているのを地元でも見かけるが、例えば少年野球で学校予定地を使っている場合、実際には少年野球では土日しか使わないので、平日に空いているところは利用方法を調整して、平日はグラウンドゴルフやゲートボールなど高齢者向けのスポーツで使うことができると思うので、利用方法について検討してほしい。
- ・ 未利用地の暫定利用方法については、特定の方々の既得権益とならないようにホームページで利用方法や条件などを広く公表してほしい。例えばスポーツをやるために横浜市が保有する未利用地を使いたい方への案内をホームページに記載し、貸し付け方法の情報が得られるようにするなど未利用地を活用する工夫を考えてほしい。
- ・ 以前、市内の民間企業が持っているスポーツ施設について、地元開放をしているか調査したことがあった。スポーツをする場の確保のためには、企業の周辺のスポーツチームが企業に直接お願いしに行くより、市が間に入り企業へアプローチすることも積極的にしてほしい。
- ・ 横浜市のホームページを使って市が保有する未利用地の暫定利用についてPRするアイデアが意見としてあったが、財政局保有土地一覧をホームページで市民が閲覧したとき、これは使っているものかどうかわからないと思う。本当に活用してもらいたいのであれば、広報をもっと充実させていくべきだと思っている。未利用地のスポーツの場としての暫定利用は、市

民からのニーズがあって初めて動き出すことだと思うが、市民・区民が企画・プロデュースというパターンではなくて、逆に行政が企画・プロデュースして、市のほうから積極的に未利用地を活用することを意識したPR方法を検討してほしい。

(7) 4月10日委員会開催

ア 議題

調査・研究テーマ「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について（出席局・市民局）

本委員会の活動の経緯等を記載した中間報告書案について確認を行い、報告書を確定した。

(8) 行政視察概要（委員所見）

ア 視察委員

行田朝仁委員、斎藤真二委員、和田卓生委員

(ア) 小中学校における夜間照明及び一般開放利用について（広島県広島市）

・一般開放される施設などは、スポーツ以外にも消防団の訓練やお祭りなどのイベントにも利用されており喜ばれているとのことだった。ただし、メンテナンス費用などの確保が課題である。横浜市において検討するに当たっては、予算確保のため、利用者の主体にもよるが、利用者負担の検討の必要性を感じる。また、災害時を想定した照明設備LED化の推進や非常用電源設備（蓄電池設備）の導入の検討などの必要性を感じた。

(イ) 広島市健康づくりセンター健康科学館について（広島県広島市）

・視察訪問時の翌日に開館100万人を迎えるタイミングで、同センターでは「からだ探検隊」の企画展が行われており、夏休みに重なりにぎわっていた。新鮮な情報を常に提供しながら、親子や地域の皆さんが一緒になって健康を考える機会を行政関連が提供していることに意義を感じた。また、小学生の時に全ての子供たちに見てほしいと感ずる内容である。

イ 視察委員

川口広副委員長、長谷川琢磨副委員長、黒川勝委員、酒井誠委員、古川

直季委員、山田一海委員

(ア) 市立吹田サッカースタジアムの概要について（大阪府吹田市）

- ・市立吹田サッカースタジアムのように、収容人数の多さだけではなくコンパクトなサイズであることにも大きな利点がある。横浜国際総合競技場の陸上トラックの内側に市立吹田サッカースタジアムがおさまるといふこのサイズ感は、実物を見ないとなかなか想像ができないはずである。これは横浜国際総合競技場の座席最前列と市立吹田サッカースタジアムの座席の最後尾のピッチまでの距離がほぼ同じであり、選手との一体感を感じられるその距離感に驚愕した。

また、寄附金だけで建設費を賄ったという事実にも驚かされた。建設資金となる140億円の大半は法人からの寄附が占めており、そのうち約7割はガンバ大阪のスポンサーであるパナソニックが寄附している。つまり建設資金の約5割をパナソニックが出資したことを意味している。日本初の寄附金による建設資金調達の成功事例ではあるが、スポンサーの課題を克服しない限り横浜市でも同じ手法を採用できる可能性は低いと思った。

さらに、大規模施設への交通手段の重要性も再認識した。スタジアムを建設する場合の大規模な建設用地が都心部にはないため郊外部を選択するしかないが、都市部から離れた郊外部はスタジアムへの交通アクセスが課題となってしまう。実際に市立吹田サッカースタジアムで、サッカーの試合があった場合には、臨時でモノレールを増両するがそれでも約500人が一度の輸送上限となってしまう。JRのように一度に2000人程度の人数を輸送する手段がないことを株式会社ガンバ大阪は課題と認識していた。横浜国際総合競技場は横浜線の二駅と市営地下鉄一駅を交通アクセスとして持つ利点を得ているが、観客席とピッチの距離感を改善する必要性等を今回の視察から改めて実感した。

(イ) アシックススポーツミュージアムの概要について（兵庫県神戸市）

- ・最初に説明を受けたのはアスリートが着用するユニフォームだったが各国のアスリートが自身のパフォーマンスを上げるために細かな提案をして、それを日本の技術力で対応することで作られたユニフォー

ムが並べられており、株式会社アシックスという日本生まれの会社が世界中のアスリートに必要とされているという事実を目の当たりにした。そして施設の2階には株式会社アシックスが培ってきた歴史を学ぶ展示がされており、会社の歴史だけでなくアシックスが積み重ねてきた技術力を垣間見ることができた。アスリートが着用した歴代のスパイクや靴など陸上競技用用具が並べられたフロアでは、プロアスリートからの信頼の強さと、アスリートからの要望を形にするための企業と技術者の粘り強さが理解できた。

さらに、施設の1階では最新のデジタル機器でスポーツを体感することができ、トップアスリートが100メートルをどのくらいの速さで走るのか、またテニスのサーブの速さや野球のバッターボックスからの視点でピッチャーが投げる球の速さも体感できる。ミュージアムといえども本社に併設された施設であり来場者はそれほど多くないが、株式会社アシックスの歴史を振り返る中で、スポーツが果たす役割の広さを改めて感じることもできた。

また、自分の住んでいる地域に世界で活躍するアスリートを支える会社があるということは地元の誇りであると思う。スポーツをする、楽しむ、だけではなく、民間の活力を利用してさまざまな提案をし、競技者をサポートすることで活力のあるスポーツ振興ができるのではないかと感じた。

(ウ) 神戸マラソンウェアラブル実証実験の概要について (株式会社アシックス) (兵庫県神戸市)

- ・ 日常に身近なスマートフォンなどのデバイスの発展はウェアラブル端末にも及んでおり、ソフト面でもさまざまな工夫がされ企業に新たなイベントなど提案のきっかけとなっている。

そういった背景のなか、株式会社アシックスで取り組み始めているスポーツとI o Tを活用した測位情報の活用は、全国各地で当たり前になり得る発想であり勉強になることが多い。特にこの取り組みの中で「運動を楽しむ」や「スポーツを通してのコミュニティー」という点だけでなく、居場所がリアルタイムで把握できるという利点を生か

した防災という観点も視野に入れていることについて、今後さまざまな場所で活用される可能性を感じられた。

また、準天頂衛星「みちびき」をGPS衛星と一体で利用することが2018年にスタートするため衛星測位のサービス環境を劇的に進化させることになり、今後ますます発展する分野であることを肌で感じる事ができた。

測位情報を活用した取り組みを地域に根差したものにしていくためには、それぞれ地域の特性を鑑みる必要がある。横浜市は、日本で一番大きな政令指定都市であり人口や市内の面積も大きい土地柄であることや市内18区のさまざまな地域特性があるため、それらを十分に考慮した測位情報の活用を考えていく必要があると思う。発展の速度が加速している各デバイスの活用は、マラソン大会という大規模イベントだけでなく、小規模なイベントであっても地域の特性を生かした工夫をすることで地域のにぎわいや防災面で安全安心なまちづくりとともに横浜市の新たな名物を生み出す可能性を感じた。

ウ 視察委員

中山大輔委員長、大岩真善和委員、大山しょうじ委員、菅野義矩委員、山田桂一郎委員

(ア) エコアイランド宮古島マラソン・全日本トライアスロン宮古島大会の概要について（沖縄県宮古島市）

- ・20年前からスポーツアイランド宮古島構想を掲げスポーツツーリズムで島を活性化する総合計画に取り組んでいる。今年で33回目の全日本トライアスロン宮古島大会が島のPRに寄与しており美しい自然環境と合わさって宮古島が全国レベルの知名度になることにつながっている。

また、全日本トライアスロン宮古島大会が、その他の島内大規模スポーツイベントのロールモデルとなっており、宮古島スポーツツーリズムの成功要因となっている。しかし頻繁なイベント開催により、ボランティアとして参加する市の職員や市民の中には、ボランティア疲れやイベント疲れを感じており、この部分の課題解決のために大会運

営業を一部民間企業へ委託するなど、大会運営の手法改善に取り組む必要がある。市民総出で大規模スポーツイベントを支援するという方法は、市民が374万人いる横浜市では難しいが、大会前後のパーティーを盛り上げる手法や、大会参加者とサポーター（応援者）の方々など、関係する全ての人々をおもてなしするという取り組みは横浜市でも手本にすべき事例である。横浜市で開催されるさまざまなスポーツイベントと観光の政策を結びつける取り組みが、ますます必要になると感じた。

(イ) 宮古島市スポーツ推進計画について（沖縄県宮古島市）

- ・スポーツ推進の構想や総合計画が重要であり、横浜市の構想や総合計画についても再点検をしたいと思う。スポーツや運動の不足は、健康の問題と密接にかかわっており、健康問題を解消し医療費の圧縮につながるという観点からも横浜市のスポーツ推進政策が理念だけに終わらないよう目標の進捗確認や実施計画の再点検が必要であると感じた。

5 まとめ

人口減少や高齢化社会、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化が問題となっている中、スポーツ振興の果たす役割は、健康の増進や体力の向上にとどまらず、地域社会の再生や地域経済の活力創造に寄与するものとして期待が高まっている。1年半後にラグビーワールドカップ2019™、約2年後には東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が決まっており、この流れをどのように位置づけ生かしていくべきか考える必要がある。そして、横浜らしいおもてなしや、大会後のレガシーの残し方や、大規模スポーツイベントを契機に地域スポーツの裾野の拡大やスポーツや運動をする場の確保について検討するため、調査・研究テーマを「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」とし、調査研究することとした。

まず、両大会のハード面とソフト面について、市の取り組みや課題をいくつかの項目に絞り所管局から報告を受けた中で、大規模スポーツイベントの機運醸成と市民のスポーツ環境の活性化をどう結びつけるのか、また両大会の成功に向けて市民や関連団体への情報共有や発信についての課題や目標の設置について活発

な議論が交わされた。その中で、大規模スポーツイベントで活躍するトップアスリートに憧れスポーツの裾野が拡大することで、トップアスリートの発掘・育成につながるといった相互関係を活性化することや、両大会のサポーターやボランティア等を通じて地域交流を発生させ、スポーツツーリズムを発展させることで地域にとっての誇りとなるような地域スポーツの活性化に寄与する政策がさらに必要であると思われる。横浜には、横浜DeNAベイスターズ、横浜F・マリノス、横浜FC、横浜ビー・コルセアーズなど、多くのプロスポーツチームが活動の拠点を置いていることから、市民がトップレベルの競技に触れる機会が多く、スポーツに関する関心が高まる条件を備えている。横浜の持つ優位性を生かしたスポーツの振興が、横浜のさらなる魅力の発信や地域活性化につながっていくことが期待できる。

また、大規模スポーツイベントを契機にスポーツを通じて地域コミュニティやそれに立脚した施策に力を入れることも重要であり、特に高齢者や障害者のスポーツ参加の促進は、健康増進による国民医療費の削減やバリアフリーのまちづくりばかりでなく、そこで輩出されるリーダーによる各地域のコミュニティの活発化や誰もが安全に暮らすことのできる地域のまちづくりの重要な要素となるはずである。

その一方で、大規模イベントに係る全体の事業費については、厳しい財政状況を踏まえ事業費が膨らみすぎないように配慮しつつも、市民のスポーツへの取り組みや、健康づくりに係る環境整備がおろそかにならないように、横浜市全体で事業費をコントロールする必要がある。

そして、スポーツをする場の確保については、財政難の時代に、東京都並みのスポーツ施設などを整備するのではなく、既存の公共施設や市が保有する未利用地の有効活用について、市民にわかりやすい広報をするなど本市からの積極的なアプローチをする必要がある。未利用地の活用については、地域住民の理解を得るための合意形成に大きな課題があるケースも多いが所管局間の連携を図り地域スポーツの活性化を推進してもらいたい。

今後は、本委員会のまとめを踏まえて、地域のスポーツや運動ができる環境づくりを推進するとともに、大規模スポーツイベントに向け市民や関係団体と一体となり、より一層の機運醸成に取り組んでほしい。

○ 健康づくり・スポーツ推進特別委員会名簿

委員長	中山大輔	(民権フォーラム)
副委員長	川口 広	(自由民主党)
同	長谷川 琢磨	(自由民主党)
委員	黒川 勝	(自由民主党)
同	酒井 誠	(自由民主党)
同	古川 直季	(自由民主党)
同	山田 一海	(自由民主党)
同	大岩 真善和	(民権フォーラム)
同	大山 しょうじ	(民権フォーラム)
同	菅野 義 矩	(民権フォーラム)
同	行田 朝 仁	(公明党)
同	斎藤 真 二	(公明党)
同	和田 卓 生	(公明党)
同	宇佐美 さやか	(日本共産党)
同	北谷 ま り	(日本共産党)
同	山田 桂一郎	(ヨコハマ会)
同	井上 さくら	(井上さくら)